

田んぼの 生きもの調査

"TANBO NO IKIMONO CHŌSA"

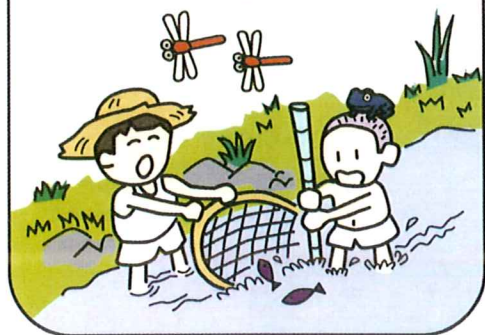
こども マニュアル



田んぼのまわりは不思議な世界
田んぼのまわりを探検しよう！

<http://www.acres.or.jp>

わしの小さなころはな……



どんな 生きものがいるか 探してみよう!



日本は戦争が終わったあと国じゅうで食べ物が少なくなってしまったので、一生けんめい田んぼをつくりました。また農家の人が仕事をしやすく、お米などの作物がたくさんとれるように田んぼを広くしたり水路をつくりました。そして日本は豊かな国になりました。でも気がついてみると田んぼのまわりにメダカやカエルなどの生きものがずいぶん少なくなっていました。

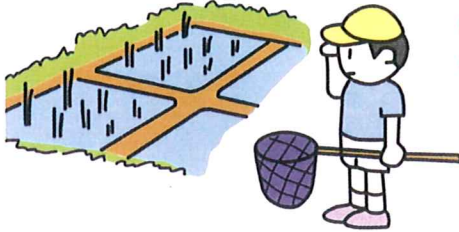
そこで国では法律を見直して、生きものも住めるように環境に気をくばって田んぼをつくっていくことにしました。

さて今、みんなの住んでいる田んぼのまわりにはどんな生きものがいるかな？

調べてみましょう。みんなが調べた結果を使って、これから生きものの住める田んぼづくりをしていきます。

1 いつ調べればいいのか？

サポーターの人が調べる日を決めてくれます。そのお手伝いをします。



2 どこを調べればいいのか？

サポーターの人が決めてくれます。ふつう、魚のワナは3つ、カエルは1つ以上の場所で調べます。

3 だれと行けばいいのか？

サポーターの人に教わっていっしょにいきます。



4 なにをすればいいのか？

魚の調査では、魚を捕るカゴわなをかけます。カエルの調査では、たも網を使ってつかまえます。捕れた魚は大きさを測ったり、写真を撮ったりします。サポーターのお手伝いをしてください。

調査の前に

これから調査する田んぼや水路は農家の人や役所などが大切にしている場所です。今回は特別に調査をしますが、いつもは子供だけで勝手に入ったりしてはいけないところです。この調査の時以外は自分たちだけで調べるのはやめてください。サポーターの人の言うことをよく聞いてルールを守りましょう。

もっと調査したい時は大人の人に相談してからにしましょう。

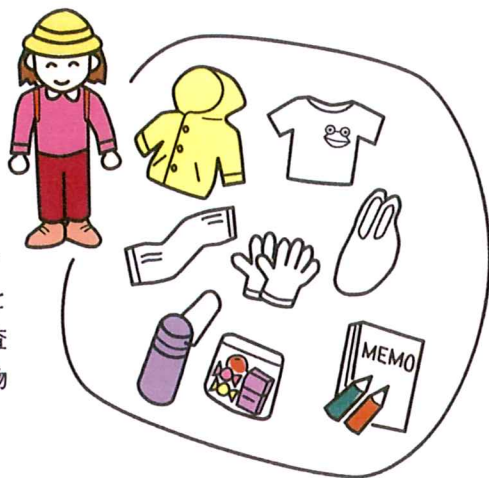


1 体の調子はどうですか？

調子の良くない日に無理をしないように心がけましょう。とにかく楽しく調査をしよう。

2 これは用意しよう

ぼうし・長そでシャツ・長ズボン・長ぐつをはきましょう。また雨具とゴミ袋は必ず用意しましょう。調査の場所では物が買えません。飲み物やおやつも持っていくといいよ。

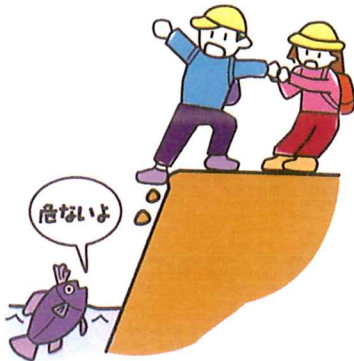


3 もしけがをした時は

ばんそうこうや虫さされの薬など念のために用意しておこう。

4 人に会ったらあいさつしよう

地域の人に会ったら、あいさつをしましょう。
昔のようすなど貴重なお話が聞けるかもしれないよ。



5 大きな水路に気をつけよう

流れの速い用水路や大きな川に落ちると危ないので絶対に近づかないでください。

6 細いあぜや田んぼの中に入らない

歩くとこわしてしまいそうなあぜや田んぼの中に入って調査しないでください。



7 ゴミは持ち帰ろう

田んぼには農家の人が一生涯懸命に育てている稲があります。絶対にゴミは出さないようにしましょう。

田んぼの生きもの調査には、魚とカエルの2つの調査があります。
それぞれのやり方をよく教わってください。
(なお、場所や時間の都合で2つの調査すべてができないこともあります。
サポーターの人の指示にしたがってください。)

— 1.魚の調査のやり方 —



かごワナのセット



たも網

使うもの (1)かごワナ (2)たも網

魚の調査にはかごワナとたも網を使います。サポーターの人に使い方をよく教わってください。

(1)かごワナ調査

1 エサをつくる

サポーターの人が教えてくれたように魚を集めるエサの準備をします。



ビニール袋にエサを入れる



よくまぜる



少しずつ水を入れてだんごにする



2 エサをしかけに入れる

"エサだんご" ができたら、かごワナのファスナーをあけてエサの入れ場所に"エサだんご"を入れます。



3 かごワナをしかける

水路の魚のいそうなところにかごワナをしかけます。みんなで相談して捕れそうなところを探してみましょう。

しかけたら、かごワナのひもを岸のどこかにむすんでおくのを忘れないように！

4 かごワナを上げる

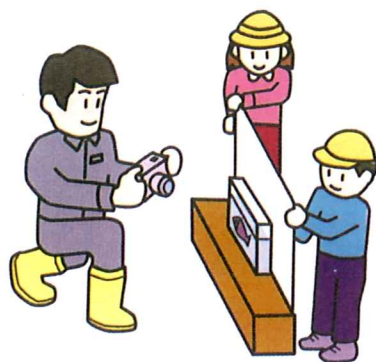
かごワナは1時間くらいおいておきます。サポーターの人が時間を教えてくれたら、さあ！かごワナを上げてみましょう。

注) 魚が入っていたら、水から上げたかごワナを地面や草むらに置かないで、空中に浮かしておく。
魚が多かったり、あばれたりしたらバケツなどに移す準備ができるまで、少し水につけておこう。



5 魚を移す

水を入れたバケツが用意できたら、かごワナの大きなファスナーをあけて魚を移します。この時に手で魚をさわったりせず、かごワナをさかさにしてよくふり、バケツに魚を流しこむようにします。



6 魚の写真を撮る

サポーターの人に教えてもらって、捕れた魚の写真を撮ります。みんなで順番に手伝ってください。

7 魚を調べる

サポーターの人が魚の名前を調べたり、大きさを測ったりします。そのお手伝いをしてください。



ここに気をつけよう

さかなにさわるとは

魚は人間が手でさわるとねん液（ぬるぬる）やうろこがとれてしまい、げがをしたようになってしまいます。なるべくさわらないようにしましょう。魚にとって人間の手はとても熱いので、もしさわるときはかならず手を水でぬらしてからにしましょう。

(2) たも網調査



1 どこでいつやるの？

たも網を使うのはかごワナをしかけた3つの場所のどこかか、別に魚のいそうな場所を探してやります。

(注 うまく場所が見つからない時はその日にやらないこともあります)

魚のかごワナをしかけた後の待ち時間でもできますが、くわしい場所・やる時・やり方などはサポーターの人に教わってください。

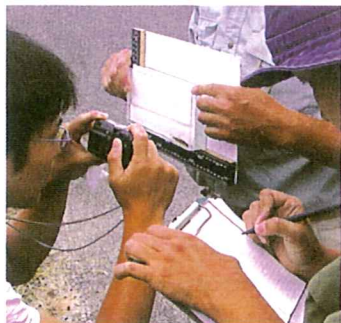


2 魚を見つけてつかまえる

たも網を使って、メダカなどの魚を見つけてすくってみます。そーっと見つけないとおどろいてかくれてしまうので、注意してみんなで魚のいる場所を探してください。たも網で捕る時もサポーターの人の言うことをよく聞いてチームワーク良くやりましょう。

3 魚の写真を撮る／調べる

前ページ手順6の通りにかごワナの調査と同じように写真も撮ります。かごワナで捕れた魚と同じものがあってももう1度写して下さい。また前ページ手順7のように魚の種類を調べお手伝いもして下さい。



2.カエル調査のやり方



1 どこでいつやるの？

やり方は魚のたも網と似ています。魚のかごワナをしかけた3つの場所のどこか、別にカエルのいそうな場所を探してやります。

(注 うまく場所が見つからない時はその日にやらないこともあります)

先に人が歩くとカエルが逃げてしまうので、カエルの調査をやる場所や時間などはサポーターの人によく聞いてください。



2 カエルを見つけてつかまえる

田んぼのあぜ道をゆっくり歩いてカエルを見つめます。カエルは人に気づくとすぐ逃げてしまうので、たも網をかぶせてすばやくつかまえます。全部で1時間くらいかけて探します。

3 少し捕れて集まったら写真を撮る

カエルが捕れて集まったら、サポーターの人とカエルの写真を撮ります。そのお手伝いをしてください。



ここに気をつけよう

カエルにさわるときは

- カエルも魚と同じで人の手は熱くて苦手です。カエルをさわるときは必ず手を水でぬらして冷やしてからさわみましょう。
- またカエルはヌルっとしていてすぐ手からすりぬけて逃げてしまいます。水でぬらした布の手袋などをしてからさわると良いでしょう。

●カエルは明るいのと熱さが苦手です。なるべくすずしく(水は少し冷たいもの)、そして暗くしてあげるとおとなしくしています。また指で目かくしをするとおちついてあまり動かなくなります。

●カエルも「田んぼの生きもの下じぎ」に本州・四国・九州の田んぼでよく見られる物のなっています。とれたカエルの名前をみてみましょう。



カエルをさわった後は、必ず手をきれいに洗いましょう。その手で目をこすったりしてはいけません。

— 調査が終わったら —

1 調査結果を記入する

調査の結果をまとめてサポーターの人に渡しましょう。



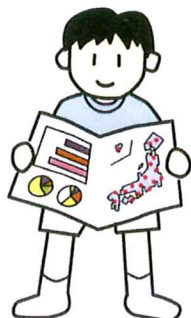
2 調査結果が整理される

みんなが調べた結果を調査官の人が整理します。



3 調査結果をまとめる

みんなが調べた結果がまとめられ、今後の整備に役立てられます。



メモ : (とれた魚の種類や特徴などをメモしよう!)

詳しい調査方法は、
(社)農村環境整備センターの
ホームページをご覧ください。
<http://www.acres.or.jp>



社団法人 農村環境整備センター

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町11-8 フジスタービル2階
TEL 03-5645-3671 FAX 03-5645-3675